

ブラキムラとめぐる！仙台城下町ボヤージュ 【2024年12月3日放送分・原町後編】

毎月第1火曜日に放送しています。歴史家で街歩き達人・ブラキムラこと木村浩二さんと、旧城下町に88本ある石柱＝辻標から歴史の痕跡を探る旅です。街歩きのお供には、仙台市役所1階の市政情報センターなどで販売中の冊子、その名もズバリ「辻標」が便利です。88本ある辻標の場所や周辺の歴史が、写真とともに分かりやすく解説されています。

- シリーズ「東番丁の旅」は前回に続いて、仙台城下の東西の物流軸である原町です。今回は、原町商店街の中ほどにある遠藤横丁まで歩きましたね。この遠藤横丁、実は藩政時代に宿場が設置される前、南目村と苦竹村の村境でした。宿場が2つの村にまたがって設置されたという事になります。こうした例は、奥州街道の長町宿（根岸村と平岡村）、七北田宿（七北田村と市名坂村）も同様です。
- 原町をさらに東に歩くと、原町四横丁のひとつである岩井横丁、そして佐々木横丁を横切ります。岩井横丁の岩井さんは造り酒屋でした。佐々木横丁の佐々木さんは、質屋さんやお肉屋さんなどをされていたようです。木村さんの個人的な思い出としては、佐々木横丁に東日乃出劇場という映画館があったそうです。「007」など観たそうですよ。ボンド役は当時、シヨン・コネリーでしょうか？

- 原町本通りには、鳥山米穀店という天保7年(1836)創業と伝わる老舗のお米屋さんがあります。現在の店舗は家伝によると、慶應2年(1866)の大火後、明治7年(1874)頃に建てられたそうです。国の登録有形文化財に指定されています。原町には最も多い時で、通り沿いに何と19軒(!)のお米さんがあったそうです。それだけ仙台藩領内で収穫された多くの米が、ここを經由して運ばれたというわけですね。



- さらに、原町本通りも終わりに近づいた変則的な四つ辻に、我々がいつも追いかけている辻標よりずっと古い石柱が立っています。「原町苦竹の道知るべ石」と呼ばれるものです。嘉永6年(1853)に立てられており、仙台市の有形文化財に指定されています。東西南北の目的地と、そこまでの距離が刻まれています。くずし字で読みにくいので、すぐそばに立っている案内板を参考にご覧ください。ここから北は、塩竈・松島方面。いよいよ塩竈街道に入って行きます。我々の街歩きは、さらに続きます！ 〈文・佐々木淳吾〉

